

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1150
施設名	向島ひまわり保育園
施設所在地	墨田区向島3-22-8
法人名	社会福祉法人宝樹会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

乳児の表現活動（リトミック）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

園の特色としては、都内にある園庭の無い園であり、基本的には毎日園外に散歩に出ている。異年齢での交流も盛んに行われ、乳児は幼児との交流も喜び楽しんでいる状況である。基本的には室内の環境も、多彩な玩具が用意され、子どもたちが好きな玩具でじっくりと遊べるようなコーナー分け等を行い、子どもたちの主体性を大切にしたい保育が行われている。時折、保育者によるピアノを用いたリトミックを行うと、年齢問わずに子どもたちが関心を示して参加でき、この活動をもっと専門的に年齢に応じて行いたい。子どもたちの表現の幅を広げたい、との思いから、昨年度から専門講師を招いていてのリトミックの活動を始め、今年度で2年目となった。

2. 活動スケジュール

月に2回、隔週で行っている。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

1歳児の保育室を使用して活動している。活動前には、安全に配慮して、机や椅子を片付け、ジョイントマットを敷き、広い空間を準備している。また、移動できる電子ピアノを用意している。その他、活動で使用する楽器や素材などは、講師がその時々テーマやねらいに応じて準備してくださっている。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

それぞれの年齢に応じているが、挨拶・導入で活動への気持ちの切り替えを行い、様々な楽器に触れて音の伸びや響きを体感する。

また、ピアノのリズムや強弱によって即時反応を行う。季節に応じた事象や講師の言葉、パネル等からイメージしたことを身体の動きで表現したり、スカーフなどを用いた表現動作を楽しみながら行っている。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

活動の内容としては、上記に記載した通りである。具体的な子どもの姿としては、0、1歳児クラスでは講師が持参した音の響きが綺麗で伸びのある楽器等に触れることができ、実際に手で触れて音を出すことでより音楽や活動への興味関心を高めている。また、どのクラスでも実感することであるが、新しい楽器に触れたり体験する時には、友だちの様子を側で見守りながら自身の順番がくるまでに期待感を高めていたり、「順番を待つ」という基本的な社会性の部分の成長にも繋がっている。

保育者も一緒に活動に参加することで、安心感を持ちながら活動に取り組んだり、場になじめない子も無理なく参加することができている。テンションが上がりすぎてしまう子などに対しても、適宜声かけを行いながら、安全に活動に取り組めるようにしている。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

リトミックの活動は今年度で2年目となった。

継続していく中で、活動に対する興味や関心はさらに増し、日常の遊びの中でもリトミックで行った表現遊びを楽しむ姿も見られるようになってきた。

継続することで、1年目は見学だけの参加だった子も、自ら活動の輪の中に参加できるようになった。

また、新年度が始まったばかりの頃は、在園児が楽しく活動している姿を見て、新入園児もリトミックの活動に意欲的に参加することができていたようである。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1150
施設名	向島ひまわり保育園
施設所在地	墨田区向島3-22-8
法人名	社会福祉法人宝樹会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

1歳児運動遊び

<テーマの設定理由>

昨年度より「乳児の表現活動」をテーマに外部講師を招き、リトミックを導入した。リトミックを通して基本的な動き「歩く・走る・止まる」を経験し、身体を動かして表現する楽しさを味わったので、更に「運動遊び」のテーマを増やし、子どもたちの「やってみたい」「どうやればいいのかな？」の好奇心・探求心をくすぐる遊具「三角橋」を購入し、室内でもできる運動遊びを増やしていきたいと感じテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

雨天時、日中の時間帯に実施。

12月3日に1回目、12月12日に2回目を行った。その後通年実施した。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

子どもたちが普段通りに遊べるように日中の時間に配置する。絵本を読んでいる間に準備し、興味を引き出せるようにした。また、安全を確保するために三角橋の下にマットを敷き、保育者が2名ついた。

4. 探究活動の実践

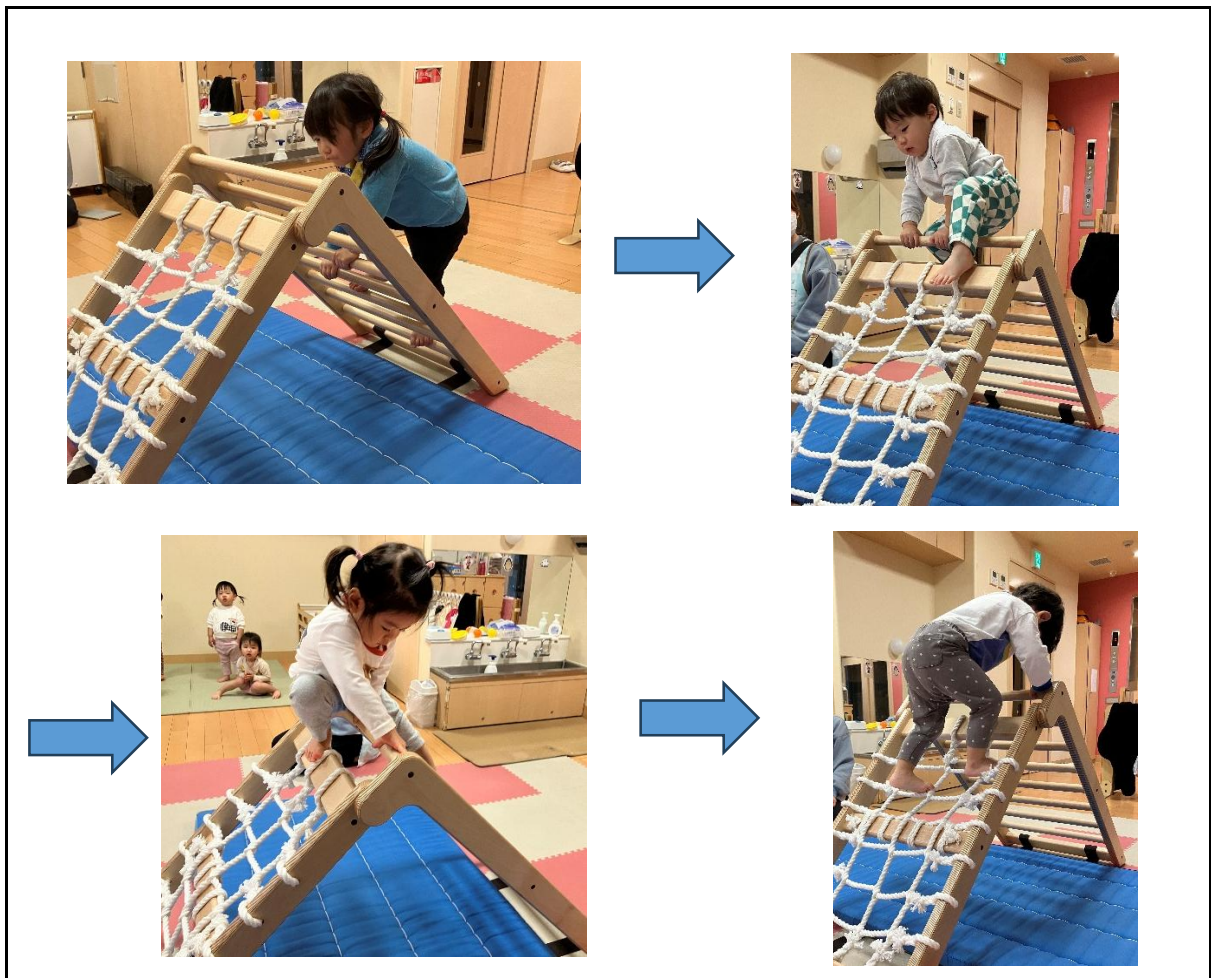
<活動の内容>

- ・「ぎゅっと握ってね」と約束を伝えて、まずは登り方を説明せず1人ずつ順番に挑戦した。子どもによってはバランスのとり方、手を置く位置など、上手く自分で身体を使いこなせていない事を実感する。
- ・実施2回目以降は自由にし、ネットの方から挑戦する子もいた。少しずつ身体の使い方を少しずつ理解し、どこに何を置くか自分で考えていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

巧技台のはしごを普段から経験していることもあり、手と足を器用に動かしてそれぞれ一人で登っていた。頂上に着くと何とか体勢を変えようと、棒を握る位置や足を置く位置を考えていた。どうすればよいか分からず、動きが止まる子もいたため「手伝う？」と聞くと「自分で！！」と答えて頑張る姿があり、見守っていると自分で考えて進んだり、進まずに降りる選択をしていた。時には「ここに手をつけてごらん」とヒントを与えると、次に足をどうにか進めようと考え、動かしてみる姿が見られた。やりたくても、途中で怖くなって泣いてしまう子もいたが、保育者が支えながら、手や足の位置を教えることで安心して最後までやり遂げる姿もあった。

何度か挑戦すると今度はネットの方から登ってみたいとなった子があり、挑戦した。反対側のはしごに足を掛けて方向転換するのが怖かったようで「こわい・・・」との声があったが、息を荒げながら何度も挑戦していた。無理強いせず、それぞれ自分で出来るところまで挑戦した。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・保育者が遊び始める前に遊び方や使い方を伝えたり、安全に配慮して支えてしまう事が多いが、子どもたちが「1人でやりたい」気持ちがあったり、自分で手や足の置く場所を考えながら取り組んでいたのは、探求心や想像力が膨らんでいったからだと感じた。また、遊びを通しながら体の動かし方を習得していき、室内でも頭と体を使って存分に遊ぶことができていた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1150
施設名	向島ひまわり保育園
施設所在地	墨田区向島3-22-8
法人名	社会福祉法人宝樹会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

科学遊び（STEM遊び）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

園の特色として、子どもの主体性を育む保育に力を入れている。活動内容は子どもたちと話し合ったり、子ども自身が選択したりできるようにしている。環境構成も子どもが好きな遊びや興味のあることに自ら取り組めるようにコーナー設定をしている。

その中の一つにSTEMコーナーがあり、子どもたちが興味をもって観察や遊びを楽しんでいる。玩具の種類や用具を増やしてコーナーの拡充を図ることで、子どもたちの好奇心や探求心を刺激し、遊びの発展に繋がって欲しいと願い、このテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

コーナーを設定し、通年実施した。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具

ピタゴラス、マグビルド、クリックソー、ギアーズ、虫眼鏡、ポケット図鑑、電卓

・コーナーの一つとしていつでも取り出せるようにしたり、子どもが遊びたいタイミングで用意をした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・色・形のバリエーションを増やし、自分たちで試行錯誤しながら作る。縦にも横にも広がれるよう、十分にスペースを作って遊べるようにする。
- ・興味があるものを手に取り、実際に触れることでいろいろな気づきを得る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・前年度から取り入れたマグビルドとピタゴラスを合わせて使っていたことから、ピタゴラスを増やした。数や形・色の種類が増えたことで集団性が上がり異年齢で関わりながら年上の子たちがリードする形で遊びが広がった。発見を友だちと共有し、さらに発展させる姿もあった。
- ・ギアーズ・クリックソーも上記と同様に3歳児だけで遊んでいる時には平面的だったものが4・5歳児が遊びに加わることで作っているものが立体的になったり複雑さを増した。
- ・電卓は3歳児クラスで数字への興味の入り口となった。
- ・虫眼鏡は、園で育てていた植物・飼育する虫を観察したり、散歩先の自然物の観察に有効的だった。
- ・ポケット図鑑は子どもが手に取りやすいサイズ感で親しみやすかった。自然物の観察・調べものに役立った。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・子どもの創造性は刺激されたようで保育者に遊び方を毎回教わらなくてもそれぞれの遊び方を見ながら学んだり、子ども同士で教え合って新しい発見を共有出来ていた。
- ・電卓、虫眼鏡、ポケット図鑑は、STEM要素の遊び以外にもままごと遊びの用具として取り入れて遊ぶ姿があった。保育者によるテーマに沿った遊びへの働きかけを継続する必要がある。